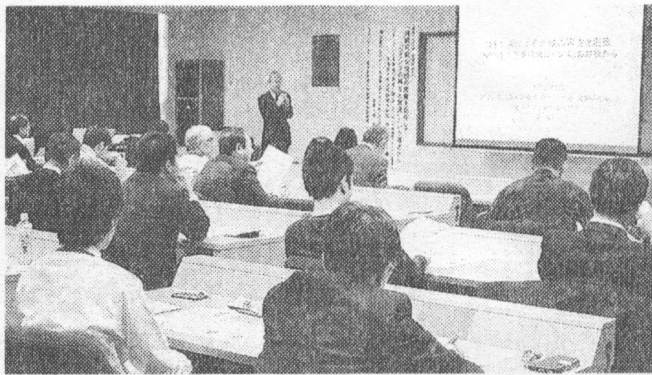


持続可能な資源維持へ

釧路公立大が地域経済セミナー

【釧路】釧路公立大地域分析研究委員会は3日、同大で地域経済セミナー



コモنزの概念による地域活性化の道を探った

ナー（2014年度第6回地域・産業研究会）を開いた。市民ら約40人が参加。北大公共政策大学院の小磯修二特任教授と、京大の間宮陽介名譽教授を講師に迎え、コモنزの視点から地域の活性化について考えた。コモنزとは、環境資源を持続可能な形で維持管理する制度や組織。小

磯教授は、苫小牧市にある苫東工業団地内緑地の維持管理を担うNPO法人苫東環境コモنزを紹介。敷地にはフットパスやハスカップが採取できる場所など、観光や地域の交流拠点となるゾーンがある。敷地は一民間企業が所有しているが、NPO、森林組合、建設業など多様な主体で構成する同法人が森林の間伐や保育などに当たっている。

このシステムは、今後の中心市街地活性化などにも活用できると提言。日本は所有地の経済価値をいかに高めるかなど土地所有権の意識が強いという課題を指摘しつつ、「苫東団地のように、地域にとって重要な空間を柔軟に使う仕組みがこれからの時代には必要」と強調した。

間宮教授は、日本の漁協が漁業に対するコモنز的役割を果たしている点に言及。資源保護に向けた漁協による獲高調整などを例に、「自治的な

働きに価値があるのでないか」と説いた。